

2024年度 Sセメスター
WINGS-GLAFS
ガイダンス

240406

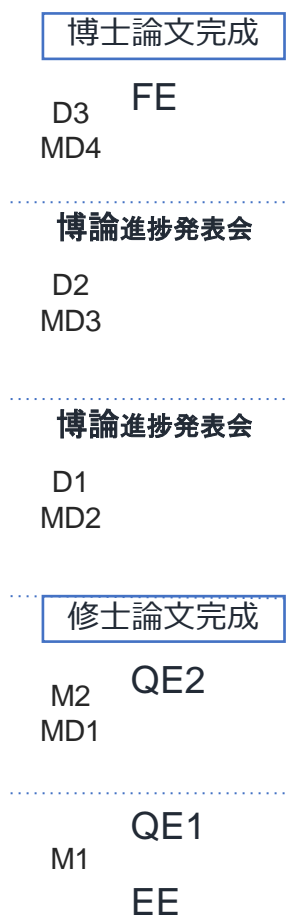
今日のプログラム

- ・ 教員・スタッフ 履修生 軽く自己紹介
- ・ IOG機構長 飯島教授 挨拶
- ・ WINGS-GLAFS プログラムコーディネーター（IOG副機構長）
大月教授挨拶
- ・ 履修生 自己紹介 **【資料2】**
- ・ 2024 S SemesterのWINGS-GLAFSプログラム案内

WINGS-GLAFS

高齢社会総合研究国際卓越大学院

日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における基盤的総合知の習得・最前線での体験を通して自らの専門領域研究力の強化を図る。



経済的支援(卓越RA)

学振DC申請個別指導

研究助成等申請個別指導

日本を皮切りに世界共通の社会課題となっている「高齢社会問題」は今や、全ての学問領域の共通の研究背景となっています。

多角的・総合的に行われている高齢社会問題をめぐる基盤的総合知を体系的・効率的に学ぶことを通して皆さんのそれぞれの専門領域の研究の幅を広げ、研究力の強化につなげます。

専門領域研究力の高度化

現場解決力

必修1単位 高齢社会演習
高齢社会総合研究の最前線における「現場解決力」の修得
※2021年度中は「高齢社会総合研究実習」

俯瞰力

必修1単位 高齢社会通論1【心と体の健康】
必修1単位 高齢社会通論2【社会環境】
日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得
※2021年度中は「高齢社会総合研究概論」

領域連携力

選択必修4単位 高齢社会横断科目群
各専攻等の提供科目を通して、自らの専門領域あるいは他の領域を超高齢社会の視点で学び考える力の修得
※2022年度から開講

民間企業、研究機関、国内海外大学等

第一線で活躍する
修了生

高齢社会総合研究機構
(IOG)

産業界

企業・団体
官(行政)

国・都道府
県・市区町村

地域

住民・NPO・
町内会自治会

国際

海外連携大学

9研究科・1学府

(※ 本プログラムでは現在「参画専攻の拡大」を実施中のため、新たに参画専攻が上記に加えられることがありますので、最新情報はHPでご確認ください。)

工学系研究科全専攻・医学系研究科5専攻・人文社会系研究科1専攻・法学政治学研究科1専攻・農学生命科学研究科7専攻
教育学研究科2専攻・総合文化研究科1専攻・情報理工学系研究科1専攻・新領域創成科学研究科2専攻・学際情報学府1専攻

WINGS-GLAFSの修了要件等

■単位の修得 合計：必修3単位+選択必修4単位

- ・ <必修> 高齢社会総合研究学通論1・2 (1単位×2科目・2単位) 【資料3】
 - ・ 高齢社会通論1「高齢者の体と心：老いとつきあう」(A1) (飯島)
 - ・ 高齢社会通論2「高齢者を支える社会環境」(S2) (大月)
- ・ <必修> 高齢社会総合研究学演習 (1単位×1科目・1単位以上) 【資料4】
- ・ <選択必修> 高齢社会横断科目群 (4単位以上) 【資料5】 【参考資料】

■夏学期末発表会、秋学期末発表会における進捗発表 (QEを兼ねる)

- ・ 修士課程学生：学修進捗発表会 (修論の進捗状況+プログラムの履修状況)
- ・ 博士課程学生：博論進捗発表会 (博論の進捗状況/合計5回の進捗発表と最終発表)

■学振 (JSPS) のDC1,DC2への申請

- ・ 修士2年4月：DC1への応募 (連休前あたりに締め切り) 全員提出必須
- ・ 博士1,2年4月：DC2への応募 (DC1獲得者は除く)
- ・ 月20万+研究奨励金特別手当 (月額3万 (上限12ヶ月)) を付与する場合がある

■SPRING-GX(WINGS)への申請

- ・ 月18万+36万の研究費 (平均月20万) +審査の上海外渡航経費

■その他、いろいろな行事への参加 (国内外、調査研究フィールド活動等) の呼びかけ

■2023年度のスケジュール（予定）

○6/18（火）午前中、米国メリーランド大学との交流

●7/27（土）【時間未定】GLAFS 7月全体発表会（QE）
（学修進捗発表・博論進捗発表）

●8/1（木）1600-1700 GLAFS募集説明会【後輩の人におすすめください】【資料6】
9/10（火）～19（木）GLAFS申請書類受付期間

○8月19日（月～9月4日（水）：国際WS「UNSW（めじろ台）」

●9/20（金）1700-1800 GLAFS秋学期修了式

●9/28（土）1400-1630 新旧合同冬学期ガイダンス
1630-1730 GLAFS交流会@ライブラリ

○9/30（月）-10/2（水）IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference
英：オクスフォード大学（少なくとも1名を派遣計画中）

●3/3（月）・4（火）GLAFS博論最終発表会【時間未定】

●3/8（土）【時間未定】GLAFS3月全体発表会（兼QE）

●3/24（月）1700-1800 GLAFS修了式



東京大学高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS
(旧 活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム GLAFS)

2024年度シラバス集



2024 年度開講科目一覧

2023 年度カリキュラム一覧									
科目番号	開講科目名称・講義別名	単位数	開講区分	主担当教員名	曜日	時限 (開始・終了)	必修 選択必修	開講日・ 講義室名・その他特記事項	
講義(必修:2 単位)									
3799-461	高齢社会通論 1	1	A1	飯島	水	5 限 16:50-18:35	必修	10/16~12/4 オンライン (初回はハイブリッド)	
3799-462	高齢社会通論 2	1	S2	大月	水	5 限 16:50-18:35	必修	6/5~7/17 オンライン	
演習(必修:1 単位)									
3799-463	高齢社会演習	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	開催日、開催場所は各プログラム担当教員が指示	WINGS-GLAFS 生はこの単位を履修
3799-234	高齢社会総合研究学実習 I	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	実習・演習 X はリーディング大学院履修生のみ
3799-235	高齢社会総合研究学実習 II	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-236	高齢社会総合研究学実習 III	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-237	高齢社会総合研究学実習 IV	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-238	高齢社会総合研究学実習 V	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-239	高齢社会総合研究学実習 VI	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-240	高齢社会総合研究学実習 VII	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-241	高齢社会総合研究学実習 VIII	2	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
3799-259	高齢社会総合研究学演習 X	1	通年	各教員	—	集中	選択必修	同上	
講義(選択必修: 4 単位以上)									
●各参画専攻から提供された高齢社会横断科目群(別表)の中から選択して合計 4 単位以上を履修する									
●以下は IOG 提供の高齢社会横断科目群を示す(リーディング大学院履修生で特論未履修の者は下記を履修する)									
3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 産学官民連携で作り上げる 高齢者の健康と地域のあり方	2	A2	飯島 孫	水	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	12/11~1/22 オンライン (一部ハイブリッドの回あり)	
3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	A2	八木	火 金	5 限 16:50-18:35	選択必修	(週 2 回) オンライン	
3799-227	高齢社会総合研究学特論VI 高齢者法	2	A1A2	樋口	木	3 限 13:00-14:45	選択必修	オンデマンド (一部オンラインの回あり)	
3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロントテクノロジー	2	A1A2	二瓶 檜山	木	5 限-6 限 16:50-20:30	選択必修	オンライン	

1.授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から8年後の2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。

本講義シリーズではこれらの課題に対して、主として高齢者の体と心について、国内のトップ講師からの講義を受け、老いとつき合うとはどういうことであるのか、その基礎を分野横断的に学ぶことが狙いである。本講義を通じて、高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者が快活に暮らし、社会の支え手となって活躍する活力ある超高齢社会について考えていく。

2. 授業内容

- ・学期 秋学期(A1)
- ・単位 1単位
- ・時限 水曜5限(16:50~18:35)
- ・評価 出席状況及び学期末のレポート提出
- ・教員 飯島 勝矢(高齢社会総合研究機構(IOG)機構長、未来ビジョン研究センター教授)
- ・教室 オンライン

3.授業日程

10/16	第1回	ジェロントロジー総論:老いとつきあう(飯島勝矢 IOG・未来ビジョン研究センター)
10/23	第2回	高齢期の社会関係とwell-being(菅原育子 武蔵野大学)
10/30	第3回	老化と生物学 疾病・障害とヘルスプロモーション(孫輔卿 IOG・未来ビジョン研究センター)
11/6	第4回	SDGsと教育—生涯学習時代における「学び」のあり方—(北村友人 教育学研究科)
11/13	第5回	転倒・リハビリテーションの支援(田中敏明先生 IOG)
11/20	第6回	人間・生活支援とテクノロジー(二瓶美里 情報理工学研究科)
11/27	第7回	都市・農村の高齢者と農業のリアリティ(八木洋憲 農学生命科学研究科)
12/4	第8回	人生の最終段階のケア(山本則子 医学系研究科)

4.その他

講義の順番や内容については変更する可能性がある。

1. 授業概要

わが国では、団塊世代の高齢化と出生率の低下により、今から8年後の2030年には65歳以上の高齢者が人口の約1/3を占め、75歳以上の「後期高齢者」も倍増して人口の約1/5を占める超高齢社会が到来する。また、韓国、シンガポールも、日本にやや遅れて2040年には高齢者人口が1/3を超え、中国でも2060年には高齢者人口が約1/3に達することが予測されている。こうした急激な人口構成の変化に対応し、医療、介護、社会保障、居住環境、社会的インフラ、就業形態をはじめとした社会システムを組み替える必要性が目前に迫っている。この社会全体の変化を見通し、超高齢社会にむけて社会システムをリ・デザインする取り組みを直ちに開始し、若い人、現役世代、高齢者の誰もが、人間としての尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きて行ける、活力ある超高齢社会の実現に向けて挑戦していかなければならない。

本講義シリーズではこれらの課題に対して、主として高齢者を支える社会環境について、建築・都市計画・社会科学・教育学などの観点から総合的に学ぶことを目的としている。本講義を通じて、高齢者の健康寿命を延ばし、経済活動・地域活動への参加を促すことによって高齢者が快活に暮らし、社会の支え手となって活躍する活力ある超高齢社会について考えていく。

2. 授業内容

- ・学期 夏学期(S2)
- ・単位 1単位
- ・時限 水曜5限(16:50~18:35)
- ・評価 毎回レポート提出(毎回一週間後締切)(ITC-LMSで対応)
- ・教員 大月 敏雄
- ・教室 Zoomにて開講(履修希望者はUTAS、ITC-LMS参照)

3. 授業日程(講義日程・講義タイトルは変更可能性あり)

第1回 6月5日(水)

超高齢社会における住まいと地域／大月敏雄(東京大学・工学系研究科)

第2回 6月12日(水)

超高齢社会を地域で支える-IOGモデルのまちづくりとは／辻哲夫(東京大学・高齢社会総合研究機構)

第3回 6月19日(水)

超高齢社会における地域への介入／李ヨンゲン(東京大学・工学系研究科)

第4回 6月26日(水)

Geron-Informatics／檜山敦(東京大学・先端科学技術研究センター)

第5回 7月3日(水)

超高齢社会のハウジング-社会学の観点から／祐成保志(東京大学・人文社会系研究科)

第6回 7月10日(水)

超高齢社会と成年後見制度／税所真也(東京大学・人文社会系研究科)

第7回 7月17日(水)

超高齢社会における外出環境／松田雄二(東京大学・工学系研究科)

4. その他

1. 授業概要

本講義では高齢化が進むなか、人生100年時代を生き抜く人生を送るために、より早期の健康維持～フレイル(虚弱)予防から、要介護状態になっても住み慣れた地域で住み続けられる地域基盤づくりまでの超高齢社会・地域の課題や動向を最近の知見とともに学ぶ。また、多様な高齢者の特性や生活パターン(生活様式)、地域の人的・環境的資源の利活用方法などを「産学官民連携を基盤とする課題解決型実証研究(アクションリサーチ)」から学び、高齢者のフレイル予防・健康維持やそれを支える環境づくりを自助・共助・互助・公助の観点から考える。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 水曜 5・6限(16:50～20:30)
- ・評価 出席日数及び課題レポートの内容により総合的に評価するが、出席を重視する。
- ・教員 飯島勝矢(高齢社会総合研究機構(IOG)機構長、未来ビジョン研究センター教授)
孫輔卿(高齢社会総合研究機構、未来ビジョン研究センター特任准教授)
- ・教室 オンライン(9, 11, 12回はハイブリッド)

3. 授業日程

- 12/11 第1回【産学官民連携1】高齢者の健康と地域のあり方:(飯島勝矢/未来ビジョン研究センター)
第2回【学1】地域でのフレイル予防活動:最新動向:(孫輔卿/未来ビジョン研究センター)
- 12/18 第3回【学2】地域でのフレイル予防活動:最新動向:(田中友規/工学系研究科)
第4回【学3】生涯現役・生涯教育(高齢者就労含):最新動向:
(コスタンティニーニ・ヒロコ/未来ビジョン研究センター)
- 12/25 第5回【官1】地域で取り組む高齢者の健康・その環境づくり:(高知県仁淀川町)
第6回【産1】フレイル予防における産学連携(食):(イオン・キューピー、高齢社会総合研究機構)
- 1/8 第7回【官2】地域で取り組む高齢者の健康・その環境づくり:(東京都西東京市・文京区の行政)
第8回【産2】フレイル予防における産学連携(口腔):(サンスター・ロッテ、高齢社会総合研究機構)
- 1/15 第9回【高齢者健康】自分たちの力で元気なまちを創る:
(東京都西東京市・文京区の住民フレイルサポーターとともに)
第10回【高齢者健康:認知症】認知症に優しい街づくり:(五十嵐 歩 医学系研究科)
- 1/22 第11回【産学官民連携:討論会】それぞれの立場から考える幸福感向上の次世代まちづくり
第12回 総まとめ、総合討論:(飯島勝矢/未来ビジョン研究センター)

4. その他

講義の順番や内容については変更する可能性がある。

1. 授業概要

この講義では、農業がおこなわれている地域に注目し、地域の実態に即して実践的に問題解決をはかるために必要な知識および手法を身につける。すなわち、人口減少・高齢化社会の中で、地域農業をいかにしてマネジメント(計画、経営、戦略策定)するかについて学ぶ。各講義は、都市農業、中山間地域農業といった「地域」別に構成される。そして、それぞれの地域において、1) 土地利用や最適配置の理論的枠組み、関連諸分野における研究および議論の所在、2) 行政、流通機構、農業経営に関する背景および制度、3) ヒアリングや統計、GIS(地理情報システム)を用いた実態分析の具体的な方法について、順を追って学ぶ。すなわち、理論、社会的背景と制度、分析方法の3側面から地域農業の実態を捉える。以上を通じて、農業・農村に関する「現場感覚」と「分析力」とを磨き、地域農業を題材として、さまざまな問題解決に役立てられる人材となってもらいたい。

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A2, 週2回)
- ・単位 2単位
- ・時限 火曜5限, 金曜5限(16:50-18:35)
- ・評価 出席票と試験
- ・教員 八木 洋憲(大学院農学生命科学研究科)
- ・教室 オンライン(または、農学部1号館10番講義室, ハイブリッドを予定) 詳細はシラバス(UTAS)を確認のこと。

3. 授業日程(過年度実績)

※順序は入れ替わることがある。スケジュール・休講は授業内で連絡する。

- 第1回 (1) ガイダンス・地域の捉え方
- 第2回 (2) 農業立地論
- 第3回 (3) 都市の農地制度と農家の対応
- 第4回 (4) 都市農業経営の経営戦略
- 第5回 (5) 都市農業経営の経営分析
- 第6回 (6) 中山間地域の制度と農家の対応
- 第7回 (7) 農地の生産性の把握
- 第8回 (8) 農地保全の可能性の評価
- 第9回 (9) 農業法人・組織の分析
- 第10回 (10) 水田経営における規模・組織・農地集積
- 第11回 (11) 農業経営の情報管理と組織 (進捗により実施)
- 第12回 (12) 海外の地域農業(イギリス) (進捗により実施)
- 第13回 (13) 海外の地域農業(アメリカ) (進捗により実施)

4. その他

1.授業概要

高齢者に関わる法制度や政策課題について基礎を学ぶとともに、高齢者法の観点について、講義およびディスカッションを行う。オンデマンド方式なのでいつでも視聴可能。確認問題に答えながら履修してください。

※2回はオンライン講義予定

2.授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 自由な時間で視聴(※オンライン講義の回は木曜日 3限 13:00 - 14:45)
- ・評価 レポートによる
- ・教員 樋口範雄
- ・教室 オンデマンド・オンライン Zoom

3.授業日程

オンデマンド方式

※ただし10/3(木)、12/19(木)3限はオンライン講義の予定です。

(日程は変更になることもありますので、最新情報は開講前にUTAS等で確認してください)

- 第1回 高齢者法の概要と倫理的配慮
- 第2回 JR東海事件 認知症の老人が加害者？
- 第3回 医療1
- 第4回 医療2
- 第5回 介護 ドーナツ事件
- 第6回 在宅医療と成年後見制度
- 第7回 住まい
- 第8回 住み続ける リバース・モーゲージ
- 第9回 年金など経済的基盤
- 第10回 相続1
- 第11回 相続2と信託
- 第12回 高齢者虐待1
- 第13回 高齢者虐待2とデジタル遺産

4.その他

- ・講義の順番や内容については変更する可能性があります。
- ・何か質問等あれば toku6@glafs.u-tokyo.ac.jp に連絡してください。

1. 授業概要

ジェロンテクノロジー(Gerontechnology)とは、高齢者を支援するためのシステムを扱う研究分野である。本科目では、高齢者の生活や社会活動などを支援するための情報・機械システムについて、オムニバス形式(一部対談)で講義を行う。本講義の内容は次の通りである。

- ・低下した運動器・感覚器の機能補助を行うための運動支援・認知機能支援システム
- ・高齢者就労など社会的課題に対応するための仕組みとシステム
- ・日進月歩での発展が著しい情報機器を用いた支援手法と、それら機器の使用の支援手法

2. 授業内容

- ・学期 冬学期(A1 A2)
- ・単位 2単位
- ・時限 木曜 5・6 限(16:50-20:30)
- ・評価 出席とレポート
- ・教員 二瓶美里(情報理工学系研究科・教授)、檜山敦(先端科学技術研究センター・特任教授)
- ・教室 オンライン

3. 授業日程

講義順序, 講師は入れ替わることがある

講義日程(予定)

- 第1回 5限 ガイダンス
6限 臨床現場におけるリハビリ工学の実際
西下智(リハビリテーション科学総合研究所研究員)吉田直樹(岡山医療専門職大学 教授)
- 第2回 5限 高齢者の農作業のための軽労化支援スーツ
田中孝之(北海道大学 情報科学研究科 教授)
6限 高齢者支援技術における国内外の動向・当事者との技術開発
井上剛伸(国立研究機関)
- 第3回 5限 医療・介護・看護・健康分野で期待されるサービスロボティクス
浅間一(東京大学 大学院工学系研究科 教授)
6限 認知症高齢者の情報支援
二瓶美里(情報理工学系研究科 教授) 山内閑子(産業技術総合研究所 主任研究員)
- 第4回 5限 パーソナルデータエコシステムと総合生活支援
橋田浩一(東京大学 情報理工教授)
6限 高齢者の見守り・モニタリング技術
森武俊(東京理科大学先進工学部/日本医療研究開発機構(AMED))
- 第5回 5限 高齢者の社会参加と就労を活性化するICT
檜山敦(先端科学技術研究センター・特任教授)
6限 次世代リハビリテーション技術
宮崎敦子(東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)
地域リハビリテーションとテクノロジー
小野敬済(東京大学大学院新領域創成科学研究科特任研究員)
- 第6回 5限 アクセシブルデザイン for 高齢・共生社会
星川安之(共用品推進機構専務理事)
6限 高齢者に寄り添うロボット
青木俊介(ユカイ工学 CEO)○ロボティクスとリハビリテーション
- 第7回 5限 高齢社会のモビリティ構築に向けて
城代志野(WHILL 株式会社 プロダクトマネジメント室執行役員室長)
6限 ICTで広がるシニアの未来
若宮正子(最高齢プログラマー)○ICTとリハビリテーション
- 第8回 5限 予備
6限 予備

1. 授業概要

具体の特定課題を実社会の中で解くために必要な社会規範や経済の理解、現場の人間関係への対応、社会に対する説得力あるプレゼン能力等によって構成される社会接続力修得のための、必修の演習である。

フレイル予防研究(老年医学)、ジェロテック研究(機械情報系工学)、ハビタット研究(建設系工学)等の領域含め、IOG 関係教員が携わっている幅広い実践領域、複合領域におけるフィールドの中で設定する具体の課題解決現場のリアリティを体験的に学ぶことを目的とする。

専門家である担当者が、履修者の専門領域の個別性、所属研究室の研究スタイルを尊重しながら、履修者に伴走し、ジェロントロジーに関わる他分野の専門領域の研究・実践に関わる方法論を伝授する。主担当はプログラム担当教員が務めるが、IOG 組織から特任研究員、ジェロネット、自治体派遣研究員、外国からの研究者、GLAFS のアルムナイ等々を積極的にインボルブし、複数の実習を履修することを通して、マルチスケールの生活場面への研究成果の社会接続の技量を体験的に学ぶ。集中講義形式で、選択肢の高いカリキュラムとする。

実習プログラムは、各学期始まりのガイダンスで示すほか、随時ホームページにおいて提示されるので、その中から選択的に履修する。

2. 授業内容

- ・学期 集中
- ・単位 1 単位 (実習は 2 単位) (1 単位は 13 時間分の演習を標準とする)
- ・時限 集中
- ・評価 演習における活動
- ・教員 各プログラム担当教員
- ・教室 各スタジオ担当教員の指示による

3. 授業日程

各スタジオ担当教員の指示による

4. その他

【演習プログラムについて】

履修の方法

- ・次のスライドより紹介する演習プログラムから選んで履修をしてください
- ・1つのプログラムに限定する必要はありませんが、プログラム毎に履修方法が異なります。興味があるプログラムの詳細を確認しつつ、履修を進めてください。
- ・演習に参加をしたら、随時、実習日誌のURLから参加時間の申請をお願いいたします。参加した時間数が不明である場合は、担当教員に確認の上、申請をしてください。

今期の日誌: <https://forms.gle/Qc5vUPJK3tccxmj47>

こちらの日誌に申請が無い限り、時間数としてカウントされませんのでご注意ください。

- ・WINGS-GLAFSのカリキュラムでは13pt (=13時間) で演習単位が履修完了となります。それ以上履修をしても、追加の単位認定にはなりませんので、ご理解の程、お願いいたします。



■**担当教員**：大月敏雄（工学系研究科建築学専攻教授）、李ヨングン（工学系研究科建築学専攻助教）

■**概要**：
八王子市めじろ台地区は1970年代から戸建て住宅を中心として開発された住宅地であるが、急激な高齢化が進行している。ポスト超高齢社会を見据えた根本的なまちづくりの計画と実践を目指して、地元自治会をベースに2019年に設立された「まちづくり協議会」に外部支援者として参加し、住民と共にまちづくりを考え、実践する。

■**日程**：
※時間はいずれも13：00-16：00ころ

2024年
5月26日(日)
7月28日(日)
9月29日(日)
11月24日(日)
2025年
1月26日(日)
3月23日(日)

■**留意事項**：
・1回の参加につき、3Pが付与されます。
・原則、毎回Zoomで行われます。
・現地参加の場合、交通費は別途支給します。
・参加希望者は、李ヨングン（lee.yonggeun@gmail.com）まで、参加希望の連絡をください。追って、Zoom IDをお知らせします。

高齢社会演習

2024年度 プログラムNo. 2402

「UNSW（めじろ台）」

■**担当教員**：大月敏雄（工学系研究科建築学専攻教授）、李ヨングン（工学系研究科建築学専攻助教）

■**概要**：
オーストラリア国立サウス・ウェールズ大学の学生20名程度が来日し、八王子市めじろ台地区の「まちづくり協議会」とともに、超高齢都市郊外団地における課題解決を考える。

■**日程**：
2024年
8月19日（月）～9月4日（水）
・東大での講義・作業
・UR赤羽台まちづくりミュージアム、長谷工マンションミュージアム見学
・めじろ台での調査・発表
・高尾山登山・多摩ニュータウン
などの活動を含みます。

■**留意事項**：
・全行程参加で13P付与（建築学専攻の建築学特別演習（2単位）もつけることができます。）
・全て英語で行われます
・交通費等は別途支給します。
・参加希望者は、大月敏雄（bigmoon@arch1.t.u-tokyo.ac.jp）まで、参加希望の連絡をください。追って、詳細スケジュールをお知らせします。

高齢社会演習

2024年度 プログラムNo. 2403

「フレイル予防」

■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、孫輔卿（未来ビジョン研究センター・特任准教授）
田中友規（高齢社会総合研究機構・特任助教）

■概要：

人生100歳時代を迎えて、高齢者が自分らしく生きるためには、「健康増進～フレイル（虚弱）予防」が重要であり、戦略的なまちづくりが必要である。東大IOGは2015年に地域住民主体のフレイルチェックプログラムを開発、担い手であるフレイルサポーター（地域高齢者）を養成し、地域において、住民主体的に高齢者がフレイルの兆候に気づき、フレイル予防活動を持続的に行えるように促している。

2024年度のフレイル予防の演習は**フレイルの勉強会（定例）に参加**しながら、IOGが長年にわたり行っている**コホート研究「栄養とからだの健康増進調査（通常：柏スタディ）」に参加**する内容である。柏スタディは、一つの会場において身体測定、歯科口腔の検診、調査票による日常生活の調査とともに、問診票は事前に配布して会場でチェック・回収する流れである。

2024年度柏スタディでは「**疲労感に着目した高齢女性のフレイル早期検知の指標と予防策の開発**」プロジェクトに関連してデータ収集や計測が行い、主観・客観のフレイル早期指標の開発を試みている。

本演習を通じて、多様な地域在住高齢者と接して、フレイル予防の重要性を知り、総合知（人文社会、情報理工、工学、医学、新領域など）の取り組みを学ぶことで、自分の研究に対する考え方や分野横断連携の作法を学ぶ。

■日程：

- (1) フレイルの勉強会：月1回（現在、WINGS-GLAFS生5名参加中）
- (2) 柏スタディ：10/17, 18, 21, 22, 24, 25, 28, 29, 31、11/6, 7
9:00-15:30（6h 30m）途中休憩時間あり：1時間半（お昼は持参すること）

* 全日参加ではなく、参加可能な日時を事前に提出して調整する

■留意事項：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずフレイル予防ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・履修希望者は、（孫）son@iog.u-tokyo.ac.jpへ連絡すること
- ・交通費、研究活動経費は別途支給



高齢社会演習

2024年度 プログラムNo. 2404

「G-tech」

■**担当教員**：二瓶美里、菅原育子、藤崎万裕、三浦貴大、藪謙一郎、吉田涼子、吉崎れいな、カンスーイン、伊藤研一郎

■**概要**：

近年、高齢化社会に起因する社会的課題に対して、AIやIoTの利活用による課題解決に関心が向けられている。一方で、活力ある高齢者が増加するとともに高齢者の生活スタイルやニーズも多様化しているため、用途に特化したソリューションでは高齢者の生活を十分に支援できないことが明らかとなっている。そのため、高齢者が自律的に自身の課題解決に取り組める柔軟性を持った社会実装のあり方について検討する必要がある。本演習では、高齢者が直面する生活課題を解決するのに、高齢者が自律的なQoL向上を目指すことが可能な生活支援ICTシステムの社会実装の検討を行う。具体的な活動としては、①**高齢者の生活スタイルとニーズを理解するヒアリング調査などの活動**と、②**実証実験を通じた社会実装の検討の活動**である。AIやIoTのみならず、VRやメタバースなどの最先端のテクノロジーを活用した座学やプロジェクトの聴講などを演習の対象とする。具体的にはジェロントロジー・アカデミーのいくつかの講義や研究プロジェクトへの参画や、共創センターやVR教育研究センターの活動も一部含める。また、プログラムを主体として得られた調査結果は学生を主体として論文執筆・国際会議発表をサポートし、著者や発表者の活動もプログラムに含める。

■**日程**：

04月	2024-04-08 Mon. 19:00 – 20:00 (1h)	G-techガイダンス@ライブラリ
05月	日程別途調整(3h)	模擬住居見学会@柏の葉・第二総合研究等
05月-08月	日程別途調整(3h)	ICT地域活動見学会
07月	日程別途調整(3h)	調査実験・予備実験
08-09月	日程別途調整(3h)	本調査・実験データ分析・論文執筆
09月	日程別途調整(3h)	春学期まとめ・秋学期計画の相談会議
日程別途調整	(3h)	ジェロントロジー・アカデミー『情報とシステム』
日程別途連絡	(3h)	ジェロントロジー・アカデミー『ジェロンテクノロジー』

■**留意事項**：

- ・上記プログラム出席希望者は必ずG-techガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・調査活動や実証実験の計画・準備会議（ライブラリ/zoom開催）などに参加すること
- ・日程が決まっていないところは、履修者と相談しながら決定予定
- ・交通費、研究活動経費は別途支給
- ・履修希望者は伊藤（k.ito@iog.u-tokyo.ac.jp）・吉崎（r.yoshizaki@mfg.t.u-tokyo.ac.jp）まで連絡をすること

■**担当教員**：飯島勝矢（未来ビジョン研究センター・教授）、辻哲夫（高齢社会共創センター・共同研究員）、田中友規（工学系・特任助教）、田中康夫（工学系・学術支援専門職員）、神谷哲朗（工学系・学術支援専門職員）、高瀬麻以（工学系・特任研究員）

■**概要**：

IOG が推進する東京大学ジェロントロジー産学連携プロジェクトのプログラムである、ジェロントロジー・アカデミージェロアカが、企業人と研究者を繋ぎ、連携していくための双方向の連携の場として2020年度から設定された。本プログラムでは、ジェロアカへの参加を通して、ジェロントロジー研究が社会実装へ向けて応用されてゆくプロセスを体験的に理解する。

■**日程**：

別紙参照

■**留意事項**：

- ・各回の情報は homeroom@ で、田中さん、葛谷さんから配信されます。随時ご確認をお願いいたします。
- ・実習ポイントの申請は必ず行ってください。

【ジェロントロジー産学連携】 8つのテーマ設定を基に、先輩社会人と学べる

アカデミー活動：事業地視察会

◆つくばモビリティイベント
(4/22)



◆移動分科会・磐田市地域イベント
(9/30)



◆向原サービス付き高齢者住宅 (7/20)



産官学民連携の社会実装

産官学民連携によるフレイル予防の店舗展開@三井ショッピングパークららぽーと富士見 (12/5)



2DAY Workshop@山上会館

ジェロントロジー産学連携で考える近未来
(2030年、2040年)の日本の姿と
今すべきこと

三菱総合研究所主席研究員 松田智生氏
オックスフォード大学教授 苅谷剛彦氏
デンマーク大使館上席政治経済担当官 寺田和弘氏



■日程：

2024年度ジェロントロジー産学連携プロジェクト予定表

<前期>		全体	サロン	アカデミー	その他
4月	上旬		豊かな健康を個と地域のウエルビーイングから考える		
	中旬	開講式 4/5(金)14:00-17:00	4/10(水)15:00-17:00		
	下旬				産官学若手勉強会(初回) 4/18(木)13:00-15:00
5月	上旬				
	中旬			第1回 5/14(火)14:00-17:00	
	下旬				
6月	上旬		豊かな健康を個と地域のウエルビーイングから考える	第2回 6/6(木)14:00-17:00	
	中旬		6/19(水)14:00-16:00		
	下旬			第3回 6/28(金)14:00-17:00	産官学若手勉強会
7月	上旬			第4回 7/9(火)14:00-17:00	
	中旬	事業地視察会(地方)			
	下旬			第5回 7/30(火)14:00-17:00	
8月	上旬		豊かな健康を個と地域のウエルビーイングから考える	エグゼクティブ・サロンvol.1 8/6(火)14:00-17:00	
	中旬		8/22(木)14:00-16:00		
	下旬			第6回 8/27(火)14:00-17:00	産官学若手勉強会
9月	上旬				
	中旬			総括会 9/12(木)14:00-17:00	
	下旬	合宿 9/26(木)PM~9/27(金)ALL			

※サロン「アクティブヘルス&ケア」は名称を変更

※サロン「ライフデザイン」は原則として毎月開催

※企業紹介、教員との交流会、その他のサロンは適宜開催

■**担当教員**：秋山弘子（高齢社会総合研究機構客員教授）、吉田涼子（高齢社会総合研究機構学術専門職員）

■**概要**：
リビングラボとは、生活の現場（住んでいる自宅、地域など）において、企画段階から住民を巻き込み、企業、自治体、大学、各種団体等が互いの強みを持ちより、生活者起点で暮らしを豊かにする製品やサービス、社会の仕組み等の新たな価値を共創する活動です。東京大学高齢社会総合研究機構は、鎌倉市、今泉台町内会、NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台、三井住友FG等と「鎌倉リビングラボ」を運営し、高齢社会の課題を解決するものやサービスを創り出す活動を行ってきました。
本実習では、大学・自治体・企業・組織等の約400団体900名が登録し、リビングラボに関する研究発表や意見交換、交流を行う「リビングラボ研究交流会」への参加機会を提供します。
その他、リビングラボに関するイベント、テストベッドにおけるワークショップやインタビュー等への参加機会も提供します。

■**日程**：
リビングラボ研究交流会は年2-3回開催を予定。日時が決まり次第メールにて告知。実施はオンラインまたは本郷キャンパス。
リビングラボイベントの開催日時は未定。日時が決まり次第メールにて告知。原則現地（鎌倉市内）での参加。

■**留意事項**：
・現地開催の場合、交通費は別途支給する。
・リビングラボ研究交流会への参加は上限なし。
・リビングラボイベントやテストベッドにおける活動は参加上限を設定する場合がある。
・告知・募集はhomerom@を経由して行う。

■ **担当教員**：飯島勝矢（高齢社会総合研究機構・機構長、 未来ビジョン研究センター・教授）、
孫輔卿（未来ビジョン研究センター・特任准教授）

■ 概要：

2024年6月18日（火）午前中、米国メリーランド大学からの訪問団が、日本の高齢社会に焦点を当て、東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）を訪れる予定です。この訪問は、高齢社会の諸課題に対する多角的なアプローチと共に、異なる学問領域からの視点を融合させることで、より深い理解と知識の構築を目指しています。社会的視点から見ても極めて重要であり、学生の皆さんにとっては研究において新たな視座を提供する絶好の機会です。

昨年の訪日体験に基づき、今回はメリーランド大学から医学、社会学、公衆衛生学、神経科学など異なるバックグラウンドを持つ学生が参加します。WINGS-GLAFSコース生との交流が期待されており、これによって異なる専門分野からのアイデアや知見を共有し、協力して新たな課題に取り組むことが期待されています。これを機に多くのコース生が自身の研究における社会的な意味を見出し、新たな知識を得るチャンスとなります。皆さんの熱心なご参加をお待ちしており、異なる専門分野からの交流が、高齢社会における研究の進展に寄与することを期待しています。

■ 日程と場所：

- ・ 2024年6月18日（火） 10：00～
- ・ 工学部 8号館 7階 702室 ラブラリー

■ 付与ポイント：

この実習では6ポイントを付与する予定です。

■ 留意事項：

- ・ 上記プログラム出席希望者は必ずフレイル予防ガイダンスを受講すること（録画対応可）
- ・ 履修希望者は、（孫）son@iog.u-tokyo.ac.jpへ連絡すること
- ・ 交通費、研究活動経費は別途支給

高齢社会演習

2024年度 プログラムNo. 2408

IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference

■担当教員：飯島勝矢

■概要：詳細は添付を確認

■日程：2024年9月30-10月2日

■場所：オックスフォード大学キャンパス内（申込者には詳細の情報をお送りいたします）

■留意事項：

1. 申し込み方法⇒改めて、homeroom@にてご案内を致します。
2. 基本的には3日間の参加ができることを条件とします。
やむを得ず抜けるタイミングがある場合は、予めご相談ください。
3. 演習ポイントは参加した時間数に応じて付与します（1時間=1pt）。
正確な見込み時間数はプログラムが確定した後に通知いたします。
ただし、懇親会は含みません。
4. 工学系WINGSプログラムとして、1名程度の渡航費用を支給する予定です。希望者が多ければ、面接等で選抜という形式をとります。

2024 IARU: International Alliance of Research Universities (国際研究型大学連合)

IARU Aging Longevity and Health Initiative Research Conference 参加者の募集

【IARU-ALH】長寿、健康と高齢社会に関する共創研究や若手研究者国際交流人的交流の推進を図るための国際カンファレンスが、オックスフォード大学で開催されます

2006

2012

NUS

2014

Copenhagen

2015

Copenhagen

◆ 参加のメリット

- ・自身の研究について、国際的な場面で意見交換ができる
- ・海外の研究生活を垣間見ることができる
- ・国際的な学生同士・若手研究者同士のつながりができる
- ◆ 高齢者や長寿がテーマですが、分野横断型の交流をするため、研究分野を問いません。他の分野の見解等についても、オープンマインドで意見交換ができる方の応募をお待ちしています。



【プログラムスケジュール】

- 1日目：参加者の研究紹介、オックスフォード大学departments訪問
- 2日目：研究紹介プレゼンテーション
- 3日目：ネットワーキング、最終報告
- *懇親会あり

For consideration at IARU Committee Meeting 18th October 2023 Tokyo

Draft Proposal for IARU Meeting in Oxford 2024

1. Dates Monday 30th September – Wednesday 2nd October
2. Venue
 - a. Accommodation: University College, Oxford
 - b. Venue: Oxford Martin School
3. Proposed Programme

Monday 30th September

9-9.30	Welcome/Refreshments
9.30-10.30	Introductions
10.30-2.00	Themed expert meetings for senior and ECR in different University Departments including Lunch <ul style="list-style-type: none">▪ Biology▪ Psychology and Neuroscience▪ Social, economic, environmental aspects▪ Technology
2.00-4.00	Themed Discussions for IARU members (4xParallel), followed by Presentations by 4 themes to all group
4.00	Refreshments
4.30-5.30	Senior Presentations: academic seminar style
<i>Dinner</i>	<i>Oxford Pubs</i>

Tuesday 1st October

9.00-1.00	Student presentations by theme (4xParallel)
1.00-2.00	Lunch
2.00-4.00	Senior presentations: academic seminar style
4.00-4.30	Refreshments
4.30-5.30	All group round-up
<i>Dinner</i>	<i>Oxford College Dinner</i>

Wednesday 2nd October

9 – 10.30	IARU Committee/ ECR Meeting
10.30 – 11	Refreshments
11-1	Future for the AHL Theme (Senior/ ECR)
<i>1.00</i>	<i>Farewell Lunch</i>

2024年度高齢社会横断科目群

2024.4更新

※当該年度での開講の有無は、各自UTASでご確認ください。

専攻名	科目番号	科目名	単位数	開講区分	主担当 教員名	備考
工/社会基盤学	3713-126	Urban Studies in the Post-Pandemic Era (ポストパンデミック時代の都市論E)	1			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工/社会基盤学	3713-140	復興デザイン学	2			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工/社会基盤学	3713-086	復興デザインスタジオ	4			※建築学専攻、都市工学専攻、工学系共通 科目
工/建築学	3714-017	建築計画学第2	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(奇数年度)
工/建築学	3714-039	建築計画学第6	2	A1A2	横山 ゆりか	隔年開講(偶数年度)
工/建築学	3714-112	建築計画学第7	2	S1	松田 雄二	毎年開講
工/建築学	3714-129	復興建築計画論	2	A1	大月 敏雄	隔年開講(偶数年度)
工/建築学	3714-019	建築計画学第4	2	S1S2	本間 裕大	隔年開講(奇数年度)
工/建築学	3714-167	復興デザイン学	2	S1S2	大月 敏雄 他	毎年開講
工/建築学	3714-136	復興デザインスタジオ	4	S1S2	大月 敏雄	毎年開講
工/都市工学	3716-001	都市計画特論第1	2	S1S2	小泉 秀樹	
工/都市工学	3716-151	都市計画特論第3	2	S1S2	村山 顕人	
工/都市工学	3718-011	都市空間政策特論第3	1	S1S2	大月 敏雄	
工/都市工学	3718-012	都市空間政策特論第4 (超高齢化社会のまちづくり)	1	S1	後藤 純	
工/都市工学	3718-013	都市空間政策特論第5	1	S1S2	小泉 秀樹	
工/機械工学	3722-101	Applied Mathematics for Mechanical Engineering			高木 周	
工/機械工学	3722-165	Numerical Methods in Mechanical Engineering			長谷川 洋介	
工/機械工学	FEN-MX5604L3	Information and Measurement			ドロネー ジャン ジャック	
工/機械工学	3724-023	技術の創造			土屋 健介	
工/機械工学	3722-024	バイオコンピューション工学	2	A1A2	白樫 了	
工/機械工学	3722-055	バイオトランスファー	1	S2	白樫 了	
工/機械工学	3722-154	美しい人工物のためのWS	2	S1S2	柳澤 秀吉	
工/機械工学	3722-155	ナノ・マイクロ医療システム	1	S1	新井 史人	
工/機械工学	3722-166	臨床バイオメカニクス	1	S1S2	高木 周	
工/機械工学	3722-167	感性ロボット制御	2	S1S2	ベンチャー ジェ ンチャン	
工/機械工学	3722-168	知能化モビリティ	2	S1S2	伊藤 太久磨	
工/機械工学	3724-079	メカノバイオエンジニアリング	2	S1S2	高木 周	
工/機械工学	3724-105	ファインマシニング	2	A1A2	杉田 直彦	
工/機械工学	3799-146	工学コンピテンシー1 -Project Based Learning-	2	A1A2	鈴木 雄二	※大学院共通科目
工/機械工学	3722-136	工学コンピテンシー3	2	S1S2	原田 香奈子	※大学院共通科目
工/機械工学	3722-138	工学リテラシー II	1	A1A2	丸山 茂夫	※大学院共通科目
工/精密工学	3729-028	医用精密工学	2	S1S2	佐久間 一郎	隔年開講(偶数年度)
工/精密工学	3729-039	精密治療支援工学	2	A1A2	小林 英津子	隔年開講(奇数年度)
工/システム創成学						
工/航空宇宙工学	3734-076	現象数理モデル論	2	S1S2	柳澤 大地	隔年開講(奇数年度)
工/航空宇宙工学	3734-078	航空交通管理特論	2	A1A2	伊藤 恵理	隔年開講(偶数年度)
工/電気系工学	3747-120 GEN-EE6f02L1	医用画像・医用磁性	2	S1S2	関野 正樹	
工/電気系工学	21210106 GHS- GC6A01L1	音響音声学(1)	2	S1S2	峯松 信明	※人文社会系研究科での開講科目である が、電気系工学専攻による講義であるため、 ここに掲載している
工/電気系工学	21210107 GHS- GC6A01L1	音響音声学(2)	2	A1A2	峯松 信明	※人文社会系研究科での開講科目である が、電気系工学専攻による講義であるため、 ここに掲載している
工/電気系工学	3747-039	ニューラルネットワーク論	1	S1	廣瀬 明	隔年開講(奇数年度)
工/電気系工学	3791-006	ブレイン・エレクトロニクス	2	S1S2	廣瀬 明	隔年開講(偶数年度)、前半は1行上のニュー ラルネットワーク論と同一

工/物理学	3752-011	量子情報物理	2	A1A2	古澤 明	※理学系・新領域と共通
工/物理学	3752-061	固体物理I	2	S1S2	関 真一郎 高橋 陽太郎	
工/物理学	3752-062	固体物理II	2	A1A2	小濱 芳允 関 真一郎 中野 匡規	隔年開講(奇数年度)
工/物理学	3752-080	統計物理学	2	A1A2	森本 高裕	
工/物理学	3752-080	量子物理学	2	S1S2	平山 元昭 江澤 雅彦	
工/物理学	3752-084	物質科学	2	S1S2	木村 剛	※理学系・新領域と共通 Lecture in English ※2024年度開講
工/物理学	3752-074	凝縮系物理学入門	2	S1S2	石坂 香子 橋本 顕一郎	
工/マテリアル工学	3765-146	医療材料学特論	1	S1	宮田 完二郎	2024年度
工/マテリアル工学	3765-167	医療機器材料工学特論	1	A1	竹原 宏明	2024年度
工/マテリアル工学	3765-103	ソフトマテリアル特論	1	A1	吉田 亮	2025年度
工/マテリアル工学	3765-170	先端バイオ医薬材料特論	1	S1	内藤 瑞	2025年度
工/応用化学	3771-085	フロンティア化学特論	2		各教員	
工/応用化学	3771-094	資源・エネルギー化学特論	2		鈴木 康介	
工/応用化学	3771-098	科学技術論	2		尾嶋 正治	
工/化学システム工学	3773-125	Multiscale Biosystem Engineering	2		太田 誠一	
工/化学システム工学	3773-167	製薬プロセスシステム工学特論	1		杉山 弘和	隔年開講
工/化学システム工学	3773-115	社会技術としての化学技術	2		酒井 康行	
工/化学生命工学	3775-114	分子生物化学 I	1		山東 信介 山口 哲志 長門石 暁	
工/化学生命工学	3775-115	分子生物化学 II	1		平林 祐介 鈴木 健夫 西増 弘志	
工/化学生命工学	3775-101	生命化学 I	2		山口 哲志 森本 淳平	
工/先端学際工学						
工/原子力国際	3789-034	エネルギーシステム概論E	2	S2	藤井 康正	
工/原子力国際	3789-035	社会科学基礎E	2	S1	小宮山 涼一	
工/原子力国際	3789-054	エネルギーシステム特論E	2	A1A2	藤井 康正	偶数年度開講
工/バイオエンジニアリング工学	3791-121	Basic Bioelectronics			バイオエレクトロニクス 分野各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-122	Overview of Bioelectronics			バイオエレクトロニクス 分野各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-126	Overview of Chemical Bioengineering			ケミカルバイオ分野 各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-203	バイオデバイス概論1			バイオデバイス分野 各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-205	バイオマテリアル概論1			バイオマテリアル分野 各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-206	バイオイメージング概論1			バイオイメージング分 野各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-213	Overview of Biodevices 2			バイオデバイス分野 各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-215	Overview of Biomaterials 2			バイオマテリアル分 野各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-216	Overview of Bioimaging 2			バイオイメージング分 野各教員	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-008	バイオデバイスの基礎技術			馬渡 和真	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-011	プロテインエンジニアリング			津本 浩平	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-033	バイオ画像工学特論			佐久間 一郎 中川 桂一	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-035	生体信号処理特論			光吉 俊二	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-036	医用放射線イメージング			佐久間 一郎	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-108	Advanced Biomaterials			高井 まどか	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-111	Biological Reaction Engineering 1			Tai Hyun Park	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-115	Advanced Biodevices			三宅 亮 松永 行子 笠間 敏博	
工/バイオエンジニアリング工学	3791-120	医工学概論			各教員	

工／技術経営戦略学	3792-106	技術ロードマッピング	2	A1A2	中島 正樹	
工／技術経営戦略学	3792-114	企業戦略論	2	S1S2	小松原 正浩	
工／技術経営戦略学	3792-157	知識社会マネジメント	2	S1S2	佐々木 一	
人文／社会文化研究	21234153 GHS- SC6A02S1	社会学演習 (住居と都市の社会学)	4	通年	祐成 保志	
人文／社会文化研究	21234154 GHS- SC6A02S1	社会学演習 (医療と障害の社会学)	4	通年	井口 高志	
教育／総合教育科学	23-216-15	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	A1A2	滝沢 龍	木曜1限
教育／学校教育高度化						
法／総合法政	25-304-01	政治学方法論 Political methods	2	S1S2	加藤淳子	水曜5限 ※公共政策大学院開講科目
法／総合法政	25-302-113	フランス社会法	2	A1A2	笠木 映里	火曜2限
法／総合法政	25-302-111	社会保障法	2	A1A2	笠木 映里	火曜4限
法／総合法政	25-304-010	政治分析方法論 I	2	S1S2	福元 健太郎	火曜3限 ※公共政策大学院開講科目
法／総合法政	25-304-011	政治分析方法論 II	2	A1A2	福元 健太郎	金曜3限 ※公共政策大学院開講科目
法／総合法政	GPP-MP6L20L1	医事法演習	2	A1A2	米村 滋人	※公共政策大学院開講科目
総合文化／広域科学	31M282-0710A	空間計画論II	2	A1A2	横山 ゆりか	隔年開講(奇数年度)
総合文化／広域科学	31M282-0610S 31M282-0630A	人間環境論I 人間環境論III	2	S1S2 A1A2	梶田 真	毎年開講。時間割編成上S1S2とA1A2の間で移動することがあり科目名の枝番が異なる。
医／社会医学	41118213	健康教育学	2			公共健康医学専攻 ※医・健康科学・看護学の「健康学習・教育学特論I」と同じ内容の二枚看板
医／社会医学	41118214	健康社会学	2			公共健康医学専攻 ※医・健康科学・看護学の「健康社会学特論II」と同じ内容の二枚看板
医／生殖・発達・加齢医学						
医／外科学						
医／健康科学・看護学	41121141 GME-HN6141L2	健康学習・教育学特論I	2			※医・社会医学の「健康教育学」と同じ内容の二枚看板
医／健康科学・看護学	41121112 GME-HN6112L2	健康社会学特論II	2			※医・社会医学の「健康社会学」と同じ内容の二枚看板
医／健康科学・看護学	41921511	高齢者在宅長期ケア特論 I	2	S1		
医／健康科学・看護学	41921512	高齢者在宅長期ケア特論 II	2	S2		
医／国際保健学	41222121	国際地域保健学特論I	2	S1	神馬 征峰	英語にて開講
医／国際保健学	41222122	国際地域保健学特論II	2	A1	神馬 征峰	英語にて開講
医／国際保健学	41122111	国際保健政策学特論I	2	S1S2	橋爪 真弘	英語にて開講
医／国際保健学	41122112	国際保健政策学特論II	2	A2W	橋爪 真弘	英語にて開講
農／生産・環境生物学						
農／応用生命化学	3902102	生物機能開発化学	1	S1	三坂 巧	隔年開講
農／応用生命化学	3902111	動物生理化学	2	S1	喜田 聡	隔年開講
農／応用生命化学	3902114	食品物理化学	2	S1	永田 宏次	隔年開講
農／応用生命化学	3902119	食品応用生化学	1	S1	山内 祥生	隔年開講
農／水圏生物科学						
農／農業・資源経済学	3912167	地域農業マネジメント (Regional Management of Agriculture)	2	A2	八木 洋憲	※農学生命科学研究科共通科目 ※工学系共通科目「GLAFS特論V(3799-226)」との二枚看板。
農／農業・資源経済学	3905535	外国農業特論 (Special Lecture on Foreign Agriculture)	2	A1A2	毎年交替	集中講義
農／生物・環境学						

農／応用動物科学	3909102	ゲノムと生体情報の科学	1	A1-W 集中		
農／応用動物科学	3909104	動物・細胞の構造の科学	1	A1		
農／応用動物科学	3909105	動物の一生の生物学	1	A2		
農／応用動物科学	3909106	正常と異常の生命科学	1	S1-A1 集中		
農／獣医学						
新領域／人間環境学	47170-71	生活支援工学特論			二瓶 美里	
新領域／社会文化環境学	47260-02	社会文化環境学概論 Introduction to Socio-Cultural Environmental Studies	2	S1	佐々木淳 他	
新領域／社会文化環境学	47183-07	空間環境形成論演習 Exercise on Space Environment Engineering	2	S1S2	清家剛 他	
情理／知能機械情報学	4850-1001	知能機構論 Mechanisms of Intelligence	2	S1S2	森本 雄矢	
情理／知能機械情報学	4850-1002	知能制御論 Intelligent Control Theory	2	S1S2	深尾 隆則	
情理／知能機械情報学	4850-1003	知能情報論 Intelligent Informatics	2	S1S2	原田 達也	
情理／知能機械情報学	4850-1005	知能ソフトウェア論 Intelligent Software System	2	A1A2	椋田 悠介	
情理／知能機械情報学	4850-1006	知能機械構成論 Architecture of Intelligent Machinery	2	S1S2	岡田 慧 稲葉 雅幸	
情理／知能機械情報学	4850-1007	ロボティクス Robotics	2	S1S2	山本 江	
情理／知能機械情報学	4850-1010	エージェントシステム Agent Systems	2	S1S2	岡田 慧 稲葉 雅幸	
情理／知能機械情報学	4850-1011	生命体システム Life-Form Systems	2	S1S2	高橋 宏知	
情理／知能機械情報学	4850-1014	複合現実感システム Mixed Reality	2	S1S2	葛岡 英明 鳴海 拓志	
情理／知能機械情報学	4850-1015	人間機械情報論 Human Machine Informatics	2	A1A2	新山 龍馬	
情理／知能機械情報学	4850-1016	ヒューマンインタフェース Human Interface	2	S1S2	葛岡 英明 鳴海 拓志	
情理／知能機械情報学	4850-1017	脳型情報処理機械論 Brain Information Processing Systems	2	A1A2	國吉 康夫	
情理／知能機械情報学	4850-1018	生体情報論 Biomedical Information Theory	2	S1S2	森 武俊 久保田 雅也 相原 正男 加藤 光広 宮尾 益知	
情理／知能機械情報学	4850-1024	生体機械システム Biohybrid Mechanical Systems	2	S1S2	竹内 昌治	
情理／知能機械情報学	4850-1020	神経行動学 Neuroethology	2	S1S2	神崎 亮平	
情理／知能機械情報学	4850-1025	先端人工知能論I Frontier Artificial Intelligence I	2	S1S2	専攻主任	
情理／知能機械情報学	4850-1026	先端人工知能論II Frontier Artificial Intelligence II	2	A1A2	専攻主任	
学際／学際情報学						
IOG提供	3799-225	高齢社会総合研究学特論IV 産学官民連携で作り上げる高齢者の 健康と地域のあり方	2	A2	飯島 勝矢 孫 輔卿	
IOG提供	3799-226	高齢社会総合研究学特論V 地域農業マネジメント	2	A2	八木 洋憲	
IOG提供	3799-227	高齢社会総合研究学特論VI 高齢者法	2	A1A2	樋口 範雄	
IOG提供	3799-231	高齢社会総合研究学特論X ジェロンテクノロジー	2	A1A2	二瓶 美里 檜山 敦	※工・先端学際工学専攻の「先端社会情報学 特論（3788-083）」と同じ内容の二枚看板

2024年度プログラム履修生募集（予告） 募集期間は2024年9月10日～19日

【プログラムについて】

本プログラムは、日本がリードする人類共通の新課題「高齢社会問題」における、基盤的総合知の習得と、最前線でのフィールド体験を通して、自らの専門領域研究が、どのように高齢社会の諸課題と接続し得るのかを理解し、自らの研究の社会対応力の強化を図ることを目的としています。このため、直接に高齢者を研究対象とする方に限らず、高齢社会の何らかの課題に高い関心を持ち、その解決に貢献する研究に取り組む方を、幅広く募集します。

【募集の対象】（募集人数10名）

修士1年：2024年4月入学者、2024年10月入学者

※ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学し、かつ博士課程進学を決意している方

【工学系研究科】全専攻【人文社会系研究科】社会文化研究専攻、【教育学研究科】総合教育科学専攻、学校教育高度化専攻、【法学政治学研究科】綜合法政専攻、【総合文化研究科】広域科学専攻、【農学生命科学研究科】生産・環境生物学専攻、応用生命化学専攻、水圏生物科学専攻、農業・資源経済学専攻、生物・環境工学専攻、応用動物科学専攻、【医学系研究科】国際保健学専攻、健康科学・看護学専攻、【新領域創成科学研究科】人間環境学専攻、社会文化環境学専攻、【情報理工学系研究科】知能機械情報学専攻、【学際情報学府】学際情報学専攻

博士1年：2024年4月入学者、2024年10月入学者

※ただし、下記に示すプログラム参画専攻に在学している方

【先端学際工学専攻、獣医学専攻、社会医学専攻、生殖・発達・加齢医学専攻、外科学専攻】

【プログラム内容】

（修了単位）必修科目3単位（通論2単位、演習1単位）、選択必修科目4単位（各専攻から提供される高齢社会横断科目群より選択）の合計7単位

（経済的支援）卓越RA：（修士1年度末のQEを経て）修士2年次より博士課程まで月額18万円支給

【募集スケジュール】

8月1日(木)16:00-17:00

募集説明会（@Zoom 録画を下記HPに掲載予定）

9月10日(火)～9月19日(木)17:00

申請書類受付期間

9月24日(火),25日(水),26日(木)

面接期間

9月27日(金)12:00

合格発表

9月28日(土)14:00-

合格者ガイダンス

※募集説明会のZoom参加者はその場で質疑に参加できます。なお、募集説明会のZoomの記録は、HPで随時見られるようにする予定です。

【募集要項・応募書類・問い合わせ先】

●募集要項・応募書類は、GLAFSホームページ<http://www.glafs.u-tokyo.ac.jp/>

●お問い合わせ：GLAFS事務局 info@glafs.u-tokyo.ac.jp

ホームページ→



Fiscal year of 2024 (Preliminary announcement)

Recruitment of Program Applicants

Application period: 2024/9/10~19

【About the program】

The “aging society issue” is a new challenge common to all humankind in which Japan is leading. This program aims to strengthen research capabilities in one’s field of expertise, through acquisition of fundamental and comprehensive knowledge and front-line experience of the issue. Therefore, we seek students not only from the field of gerontology but also from other various fields. Students with high interest in aging society and a passion to engage in research that would contribute to resolving the issue of the society, is welcomed.

【Recruitment criteria】 (recruiting 10 students)

1st year master’s course students : enrolled either in April or October 2024

※students are required to be enrolled in one of the following department/majors

※students are required to continue to doctor’s course

【School of Engineering】 all majors 【Graduate School of Humanities and Sociology】 Division of Socio-cultural Studies、 【Graduate School of Education】 Integrated Educational Sciences、 Department for Excellence in School Education、 【Graduate Schools for Law and Politics】 School of Legal and Political Studies、 【Graduate School of Arts and Sciences】 Multidisciplinary Sciences、 【Graduate School of Agricultural and Life Sciences】 Department of Agricultural and Environmental Biology、 Department of Applied Biological Chemistry、 Aquatic Bioscience、 Department of Agricultural and Resource Economics、 Department of Biological and Environmental Engineering、 Department of Animal Resource Sciences、 【Graduate School of Medicine】 School of International Health、 Division of Health Sciences and Nursing、 【Graduate School of Frontier Sciences】 Human & Engineered Environmental Studies、 Department of Socio-Cultural Environmental Studies、 【Graduate School of Information Science and Technology】 Mechano-Informatics、 【Graduate School of Interdisciplinary Information Studies】 Department of Interdisciplinary Information Studies

1st year doctor’s course students: enrolled either in April or October 2024

※students are required to be enrolled in one of the following majors

【Department of Advanced Interdisciplinary Studies、 Department of Veterinary Medical Science、 Social Medicine、 Reproductive Developmental and Aging Sciences、 Surgical Sciences】

【Program contents】

(credits required for completion) Total of 7 credits from 3 compulsory credits (General Theory 2 credits、 Practical Exercise 1 credits)、 and 4 elective compulsory credits from The Gerontology Subject Group lectures provided at each major

(financial support) WINGS RA : (after passing the QE at the end of 1st year of master’s course) 180,000 Yen from 2nd year of master’s course to the end of doctor’s course

【Recruitment schedule】

August 1st (Thurs.) 4-5 PM

Recruitment Orientation

※Attendees of Recruitment Orientation will have live Q&A time

(@Zoom: Archive will be available via homepage)

September 10th (Tues.) ~ 19th (Thurs) Application period (deadline: 5 PM of the 19th)

September 24th (Tues.), 25th (Wed.), 26th (Thurs.) Interview Days

September 27th (Fri.) Noon Result announcement

September 28th (Sat.) 2PM~ Guidance for successful applicants

【Contact information for inquiries】

●Check GLAFS homepage for recruitment criteria and application form

●Contact information : GLAFS office info@glafs.u-tokyo.ac.jp

Home page →



【ご紹介】2024年度高齢社会横断科目群の一科目です。

大学院都市持続再生学コース 東大まちづくり大学院 シラバス

講義名	超高齢社会のまちづくり（都市空間政策特論第4）3718-012
担当教員名	後藤純
単位数(コマ数)	1単位(2コマ×4)
講義曜日・時限	火曜6限・7限
講義目的	2025年に、団塊世代（1947年～1949年生）が後期高齢者になり、人口の2割が75歳以上（後期高齢者）になる。2035年には、85歳以上人口が1000万人を超える。人類史上初めての出来事であり、あと10年ほどで社会システムは大変革を求められる。欧米だけでなく、BRICsなども、2035年にかけて急速に高齢化していく。持続可能な社会において、超高齢社会への対応は見逃せない課題であるが、一方、都市計画・まちづくりにおいては、「医療福祉の問題」としてしか、見なされていない。 本講義では、復興まちづくり、郊外住宅地再生、中心市街地活性化など、都市計画の焦眉の課題を取り上げて、コミュニティの物的・社会的生活環境のプランニング方法について、具体的なケースをもとに、分野横断的に講義を行う。
成績評価方法	講義への参加状況とレポートによる。

No.	講義日程	講義時限	講義者	講義形式	講義タイトル	講義者の所属・役職
1	4月30日	6限	後藤 純	ハイブリッド	ガイダンス・現代的な高齢者のニーズと地域包括ケアシステム（141教室）	東海大学建築都市学部・准教授
2	4月30日	7限	後藤 純	ハイブリッド	超高齢社会のまちづくりモデル（141教室）	東海大学建築都市学部・准教授
3	5月7日	6限	似内 遼一	ハイブリッド	地域コミュニティを基点とした立体的復興まちづくり（141教室）	都市工学専攻・助教
4	5月7日	7限	堀田 直揮	ハイブリッド	ごちゃまぜの復興まちづくり -シェア金沢、輪島カブーレ（ZOOM）	生涯活躍のまち理事（公社）／青年海外協力協会・事務局長
5	5月14日	6限	小紫 雅史	ハイブリッド	奈良県生駒市における「まちの駅」の取り組み -複合型コミュニティ-（141教室）	奈良県生駒市・市長
6	5月14日	7限	藤村 龍至	ハイブリッド	高齢化する郊外住宅地の再生について（141教室）	東京芸大・准教授
7	5月21日	6限	永森 克志	ハイブリッド	地域医療とまちづくり（141教室）	医療法人社団ささえる医療研究所・理事長／医師
8	5月21日	7限	未定（川崎市？）	ハイブリッド	都市行政等から考える高齢社会の政策（141教室）	未定